









































































































































































































































































































































































































































































































事前・事後学修	<p>事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 今まで学修した国際看護論の中で印象に残ったことを書き出しておく。 ウェブサイトにて「JICA」「JICA海外協力隊」「WHO」「UNICEF」「在留外国人」「外国人労働者」「外国人看護師」というキーワードで検索、内容を理解しまとめておく。各回120分</p> <p>事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分 授業の内容を整理し、自分の関心と結び付けて、授業感想を書く。 講義内容の振り返り、関連資料の確認。</p>
評価方法	各担当教員による講義後のリアクションペーパーやレポートで評価する。
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教科書	無
参考書	<p>木原正博他監訳（2017）「グローバルヘルス」、MEDSI、柳澤理子編（2017）「改訂版国際看護学」、PILAR . 指定文献(1) 厚生労働省ウェブサイト ：<a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuhoken/iryuhoken01/index.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuhoken/iryuhoken01/index.html</a> その他必要に応じて、資料・文献を提示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践グローバルヘルスー現場における実践力向上を目指して（編）日本国際保健医療学会（2022）</li> <li>2. 若林真美，磯博康，日本におけるグローバルヘルス外交の動向と官民連携，保健医療科学 72(5)，2024年1月</li> <li>3. 若林真美，高橋麻奈，磯博康，COVAXファシリティ等を通じた新型コロナワクチン支援 - 太平洋島嶼国を事例として - 国際保健医療 37(2) 2022年6月</li> </ol> <p>その他必要に応じて、資料・文献を提示する。</p>
履修上の注意点及び取扱い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オンラインでの講義の可能性あり。授業中の携帯電話・スマートフォンの使用は講義が必要な場合のみ可能とします。</li> <li>2. 積極的に授業に臨み、授業を活性化させる発言を期待しています。</li> <li>3. グループ討議には積極的に参加すること。</li> </ol>

科目名	キャリア形成論		
科目コード	34304	科目ナンバリング	B343043
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	清水 輝子		
実務経験	管理者・看護師として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間(講師控室)		
科目概要	<p>キャリアとは、組織内の昇進、専門職の体系的なステップ、生涯にわたる職業経歴、社会的な認知、仕事に関連した生涯にわたる諸経験などである。本科目では、キャリア形成とは、どのようなことかを問い、そのプロセスを通じて、看護職となる自分を見つめ、将来の仕事・職業、社会に主体的に向き合い、自己の目標を実現する考え方や能力を育む。授業では、キャリア形成の概念、自分らしさの発見、職業観の形成、看護職の特性、キャリア準備、キャリア・ラダー、自己管理、自己実現、社会貢献について事例の提示や討論によって理解を深める。</p> <p>「別表3：看護の統合と実践」</p>		
到達目標	<p>キャリアの概念とキャリア形成の意義を理解できる。          社会の看護へのニーズと看護職のキャリア形成との関連を考えることができる。          自己の職業観、将来像について考えることができる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		ガイダンス キャリア形成の概念 事前・事後学修はその都度指示する。	清水
2		自分らしさの発見 事前・事後学修はその都度指示する。	清水
3		将来の職業像 事前・事後学修はその都度指示する。	清水
4		看護職のキャリア形成とは 事前・事後学修はその都度指示する。	清水
5		キャリア・ラダーとは 事前・事後学修はその都度指示する。	清水
6		キャリア形成の道(プロセス) 事前・事後学修はその都度指示する。	清水
7		なりたい自分の将来像を明らかにする 事前・事後学修はその都度指示する。	清水
レポート		レポート	清水
事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分		
評価方法	レポート：100%		
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。		
教科書	必要に応じて、資料を提示する。		
参考書	必要に応じて、提示する。		
履修上の注意点及び取扱い	無		

科目名	卒業研究(卒論ゼミナール)		
科目コード	34305	科目ナンバリング	B343053
授業形態	演習	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	3単位	時間数	90時間
先修条件	2年次後期までの必修科目をすべて修得していること。		
教員名	大谷 恵・安藤 詳子・石井 成郎・榊原 久孝・鈴江 智恵・野村 千文・藤本 悦子・小倉 久美子・小島 徳子・小平 由美子・増永 悦子・伊東 裕康・岩井 美世子・大瀬 恵子・小澤 直樹・河村 江里子・後藤 美恵・佐久間 美里・佐々木 久美子・滝沢 美世志・肥田 武・村岡 大志		
実務経験	産業医として勤務(榊原) 助産師として病院勤務(小島・大瀬) 看護師として病院勤務(安藤・大谷・鈴江・野村・小倉・小平・増永・岩井・小澤・河村・後藤・佐久間・佐々木・滝沢・村岡)		
オフィスアワー	授業日・授業終了後から17時まで・担当教員メールアドレス宛てに連絡		
科目概要	<p>本科目では、文献学修を踏まえ研究目的を明らかにし、研究計画書(プロジェクト計画書)を作成する。指導教員のもと研究(プロジェクト実践)を行い、結果を分析し論文を作成する。学修成果は発表会で報告し、学生間で意見交換を行う。これら一連の過程を通して、学術的なものの見方・態度、企画力・行動力、コミュニケーション力など、総合的な課題解決能力を培う。また、指導教員や研究協力者などとの交流を通して人間理解を深め、看護の可能性を広げる視点を養う。</p> <p>「別表3：看護の統合と実践」</p>		
到達目標	<p>文献学修を踏まえ、研究目的、研究方法を明確にすることができる。 研究計画書(プロジェクト計画書)を作成することができる。 倫理的配慮に関する手続きについて、考察することができる。 データを分析し、結果・考察を導くことができる。 研究結果(プロジェクト実施結果)をまとめ、論文を作成することができる。 発表会にて、自らの成果を報告し意見交換することができる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		ガイダンス 研究疑問(テーマ)に関する文献学修・資料収集	各教員
2		研究疑問(テーマ)に関する文献学修・資料収集	各教員
3		研究疑問(テーマ)に関する文献学修・資料収集	各教員
4		研究疑問(テーマ)に関する文献学修・資料収集	各教員
5		文献学修まとめ	各教員
6		研究目的(プロジェクトテーマ)の検討	各教員
7		研究計画書(プロジェクト計画書)の作成	各教員
8		研究計画書(プロジェクト計画書)の作成	各教員
9		研究計画書(プロジェクト計画書)の作成	各教員
10		研究計画書(プロジェクト計画書)の作成	各教員
11		倫理的配慮に関する手続きの検討	各教員
12		研究計画(プロジェクト計画)の実施	各教員



科目名	周産期医学論		
科目コード	35101	科目ナンバリング	B351013
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	助産師課程に在籍していること。		
教員名	大瀬 恵子・今永 弓子・坂井 啓造・嶋津 光真・西川 有紀子・服部 慎之介・南谷 智之		
実務経験	大瀬：助産師として病院勤務 嶋津：指導医・専門医として病院勤務 坂井：指導医・専門医として病院勤務 西川：専門医として病院勤務 南谷：指導医・専門医・認定医として病院勤務 今永：医師として病院勤務 服部：医師として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間(講師控室)		
科目概要	妊婦初期から中期・末期、産後における代表的な疾患について、疫学的状況、病態、特徴的な症候、治療法、予後等の基本的事項を学修する。授業では、可能な限り症例を提示し、母親及び新生児の正常からの逸脱を早期に発見、予知、さらには予防するために必要な知識や判断について、事例検討を行う。また、公衆衛生的な取り組みや倫理的事項についても、事例を検討することを通して理解を深める。  「別表2：助産診断・技術学」		
到達目標	妊娠、分娩、産褥各期の正常からの逸脱の識別に必要な基礎知識と検査法が理解できる。 習得した知識を活用して、異常の早期発見はもとより、予防的ケアを考えることができる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		妊娠期の異常(妊娠持続期間の異常、着床異常、他) 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	嶋津
2		不妊治療 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	嶋津
3		新生児の異常と救急 事前学修：「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.234-302、「病気がみえる」p.400-431 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。  内科的合併症妊娠の管理(心・血管系疾患合併妊娠、血液疾患合併妊娠、腎疾患合併妊娠) 事前学修：「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.81-84・90-97、「病気がみえる」p.195-198 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	嶋津
4		母子感染症の診断と治療 事前学修：「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.118-127、「病気がみえる」p.206-226 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	服部

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
5		出生前診断 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	西川
6		母子感染症の診断と治療 事前学修：「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.118-127、「病気がみえる」p.206-226 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	西川
7		胎児異常妊娠、遺伝カウンセリング 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	南谷
8		産科手術、無痛分娩 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	南谷
9		分娩期の異常（分娩3要素の異常） 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめる。 事後学修：教科書や参考書、授業で配布したプリントをもとに授業内容を整理すること。	今永
10		出産に伴う偶発合併症（弛緩出血、子宮内反症、頸管裂傷、DIC、産褥熱など） 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	南谷
11		産褥期の異常（精神疾患、他） 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめる。 事後学修：教科書や参考書、授業で配布したプリントをもとに授業内容を整理すること。	今永
12		産科救急、外国人妊産褥婦へのケア 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	南谷
13		ハイリスク妊娠 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	坂井
14		婦人科疾患合併妊娠 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	坂井
試験		定期試験	全員
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評価方法		定期試験：100%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		1．遠藤俊子編「助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」、日本看護協会出版会 2．医療医用法研究会編「病気がみえる Vol.10 産科」（第3版）、メディックメディア	
参考書		1．荒木勤「最新産科学 正常編」（第22版）、文光堂 2．荒木勤「最新産科学 異常編」（第22版）、文光堂	
履修上の注意点及び取扱い		院内での緊急事態により、授業回が前後する可能性がある。 その場合は学務課を通じて掲示等で連絡するため、注意すること。	

科目名	助産学総論		
科目コード	35102	科目ナンバリング	B351023
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	「助産管理論」の単位数先修条件となる。		
教員名	大瀬 恵子・小島 徳子・野々山 英里・平野 友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間内		
科目概要	<p>助産の基本概念、変遷過程を理解し、対象の特性及び国際的な視野を含めた幅広い助産活動を行うために必要な基本知識を学修する。助産師の社会的使命と役割・機能を理解するとともに、助産の意義や対象を広くとらえ「助産、助産師とは何か」を絶えず自らに問いかけながら助産師の専門性、助産師に求められる姿勢や態度について考え、学修することをねらいとする。</p> <p>「別表2：助産診断・技術学」</p>		
到達目標	<p>助産師の実践活動について歴史的変遷を踏まえ、その役割と責務を理解できる。  助産師の専門性と自律した業務活動について理解できる。  助産師の職業倫理について理解できる。  助産活動について、日本と諸外国の活動を比較検討できる。  助産師教育について、日本と諸外国の教育を比較検討できる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		助産師課程概要・授業の進め方 助産の概念 事前事後「助産学講座1」該当ページと配布資料	小島
2		助産師の定義と業務 助産師と教育 事前事後「助産学講座1」該当ページと配布資料	小島
3		プレコンセプションケア 事前事後「助産学講座1・2・3」該当ページと配布資料	野々山
4		助産師を支える理論と研究 事前事後「助産学講座1」該当ページと配布資料	小島
5		助産師と倫理 事前事後「助産学講座1」該当ページと配布資料	小島
6		母子保健の動向 事前事後「助産学講座1・9」該当ページと配布資料	小島
7		助産の歴史と文化 事前事後「助産学講座1」該当ページと配布資料	小島
事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分		
評価方法	課題レポート100%		
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。		
教科書	1. 我部山キヨ子、安達久美子編：「助産学講座1 基礎助産学[1] 助産学概論」(第6版)、医学書院 2. 我部山キヨ子、武谷雄二編、藤井知行：「助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学」(第6版)、医学書院 3. 我部山キヨ子編：「助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学」(第6版)、医学書院		
参考書	山本あい子編：「助産師基礎教育テキスト1 助産概論」、日本看護協会出版会 吉沢豊予子：「助産師基礎教育テキスト2 女性の健康とケア」、日本看護協会出版会		



<p>履修上の注意点 及び取扱い</p>	<p>【履修について】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 事前事後の学修を怠らないこと。</li> <li>2 課題やレポートは、提出日時を厳守すること。</li> </ol> <p>【出欠席について】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 無断欠席は一切認めない。</li> <li>2 やむを得ず欠席する場合は、担当教員に連絡すること。</li> </ol> <p>【定期試験の受験資格について】</p> <p>学修ガイダンスに準ずる。</p> <p>【定期試験（課題レポート）不合格者に対する取扱いについて】</p> <p>（助産師課程要項参照）</p> <p>不合格（再試験でD評価）の場合、次年度に再履修することはできない。 したがって、助産師課程離脱となる。</p>
--------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目名	助産管理論		
科目コード	35103	科目ナンバリング	B351033
授業形態	講義	開講時期	3年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	1. 「助産学総論」・「助産診断技術学」の単位を修得していること。2. 「助産学演習」の単位数先修条件となる。		
教員名	大瀬 恵子・鈴江 智恵・小島 徳子・野々山 英里・平野 友美・中村 尚子・真野 真紀子		
実務経験	看護師として病院勤務(鈴江) 助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野) 管理者・助産師として病院勤務(真野) 管理者・助産師として助産院勤務(中村)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間		
科目概要	助産業務の管理に必要な知識、法的範囲と責任と助産師外来や院内助産を含めた助産所のマネジメントとしての管理運営の基本に関する理解を深め、助産師業務を評価・調整する基礎的な能力を養う。また、周産期医療を取り巻く助産管理の実際と課題(医療安全の確保と医療事故防止とその対応、災害時の看護等)を様々な助産活動の場を通して理解する。 「別表2：助産管理」		
到達目標	助産業務・管理の基本概念とプロセスについて理解する。 助産活動に関連した法規と責任について理解する。 助産業務管理の理論と実際を理解し、その課題を考えることができる。 助産に関わる事故・災害について理解し、その対応・対策を考えることができる。 自立した助産師活動について考えることができる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		助産管理の基本と助産業務管理：組織における管理とは 「助産学講座10 助産管理」該当ページ	鈴江
2		助産管理の基本と助産業務管理：組織における管理とは 「助産学講座10 助産管理」該当ページと配布資料	鈴江
3		助産業務管理と医療経済、関連法規と助産師の業務・責任：関連法規、助産師の法的責任と義務 「助産学講座10 助産管理」該当ページと配布資料	小島
4		関連法規と助産師の業務・責任：関連法規、助産師の法的責任と義務 「助産学講座10 助産管理」該当ページと配布資料 母子保健行政の体系：母子保健にかかわる法律 「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」該当ページと配布資料	小島
5		周産期医療体制と地域連携 助産学講座10 助産管理」該当ページ	小島
6		地域母子保健の考え方 「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」該当ページ	小島
7		場に応じた助産業務管理：周産期棟・混合病棟の管理 「助産学講座10 助産管理」該当ページと配布資料	真野
8		場に応じた助産業務管理：院内助産・院内助産院の管理 「助産学講座10 助産管理」該当ページと配布資料	真野
9		助産に関する医療安全と危機管理：助産師が行う安全対策と医療事故防止 「助産学講座10 助産管理」該当ページと配布資料	小島
10		国際母子保健：諸外国の母子保健活動、海外在日外国人の母子保健 在留外国人の母子保健 「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」該当ページと配布資料	小島

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1 1		災害対策：災害時の地域母子保健活動 「助産学講座10 助産管理」「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」該当ページと配布資料	小島
1 2		助産所における助産業務管理：助産所の管理・運営、助産所の管理に関する法規 「助産学講座10 助産管理」該当ページと配布資料	中村/大瀬
1 3		地域母子保健活動の基盤：母子保健活動における連携・協働、地域の様々な場における助産師の役割 「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」該当ページと配布資料	中村/大瀬
1 4		地域母子保健活動の実際：産前の地域母子保健活動、産後の地域母子保健活動、特定の状況における地域母子保健活動 「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」該当ページと配布資料	中村/大瀬
試験		定期試験	全員
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評価方法		定期試験：100%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		我部山キヨ子、毛利多恵子編：「助産学講座10 助産管理」（第6版）、医学書院 我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」（第6版）、医学書院	
参考書		日本助産師会：「助産所開業マニュアル」（改訂版）、日本助産師会 福井トシ子編：「新版 助産師業務要覧 第4版 I 基礎編」2024年版、日本看護協会出版会 福井トシ子編：「新版 助産師業務要覧 第4版 II 実践編」2024年版、日本看護協会出版会 福井トシ子編：「新版 助産師業務要覧 第4版 III アドバンス編」2024年版、日本看護協会出版会 日本助産師会：助産業務ガイドライン2019、日本助産師会出版	
履修上の注意点及び取扱い		【履修について】 1 事前事後の学修を怠らないこと。 2 課題やレポートは、提出日時を厳守すること。 【出欠席について】 1 無断欠席は一切認めない。 2 やむを得ず欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 【定期試験の受験資格について】学修ガイダンスに準ずる。 【定期試験（課題レポート）の不合格者に対する取扱いについて】 (助産師課程要項参照) 不合格（再試験でD評価）の場合、次年度に再履修することはできない。 したがって、助産師課程離脱となる。	

科目名	助産診断技術学		
科目コード	35104	科目ナンバリング	B351043
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	3単位	時間数	45時間
先修条件	「助産診断技術学」の単位数先修条件となる。		
教員名	大瀬 恵子・小島 徳子・野々山 英里・平野 友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間		
科目概要	<p>正常な経過をたどる対象者（妊婦・褥婦・新生児とその家族）の助産診断を臨床推論（Clinical Reasoning: CR）を通じて系統的に学修する。初期情報のアセスメントに基づき、探索的な情報収集を行うことにより診断の精度を高めていくという姿勢を獲得する。その上で、科学的根拠、女性の語り、文化・社会背景といったさまざまな視点から助産ケアの方向性を決定していくプロセスを学ぶ。これより、科学的根拠に基づき、対象者へ安全に助産実践できる基礎的能力を身につける。</p> <p>「別表2：助産診断・技術学」</p>		
到達目標	<p>助産診断・技術学の概要、マタニティサイクル各期の助産過程の展開について理解する。</p> <p>正常な経過をたどる助産の対象者（妊婦・褥婦・新生児およびその家族）の経過診断、健康生活診断するために必要な知識を修得する。</p> <p>ハイリスク妊娠および妊娠期の異常にある妊婦の助産診断と援助を理解する。</p> <p>ハイリスク・異常状態にある褥婦の援助を理解する。</p> <p>健康教育を行うための基礎知識を理解する。</p> <p>健康教育を行うための企画・運営・評価を理解できる。</p> <p>マタニティサイクル各期で行われる検査や使用される薬剤を理解する。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		科目ガイダンス 助産診断入門【臨床推論アプローチ】	小島
2		妊娠期の助産診断：妊娠経過の診断、胎児の発達・健康状態の診断 事前事後「助産学講座5・6」該当ページと配布資料	小島
3		妊娠期の助産診断：妊婦の健康生活の診断、妊婦の心理社会的側面の診断 事前事後「助産学講座4・6」該当ページと配布資料	小島
4		妊娠期の助産診断：事例展開と健康課題と健康教育と保健指導 事前事後「助産学講座5・6」該当ページと配布資料	小島
5		ハイリスク管理：妊娠期、産褥・新生児期 事前事後「助産学講座6・7・8」該当ページと配布資料	小島
6		妊娠・産褥期【講義】：検査・薬剤・手術 事前事後「助産学講座6・7」該当ページと配布資料	小島
7		産褥期の助産診断：診断産褥経過の診断、褥婦の健康生活の診断 事前事後「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
8		産褥期の助産診断：褥婦の心理社会的側面の診断 事前事後「助産学講座4・7」該当ページと配布資料	小島
9		産褥期の助産診断：育児能力の診断、母乳育児に関する診断 事前事後「助産学講座7・8」該当ページと配布資料	小島
10		産褥期の助産診断：健康課題と教育 事前事後「助産学講座5・7」該当ページと配布資料	小島
11		産褥期の助産診断：事例展開と健康課題と保健指導 事前事後「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
12		産褥期の助産診断：事例展開と健康課題と保健指導 事前事後「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
13		新生児期の助産診断：出生後24時間以内の経過診断 事前事後「助産学講座8」該当ページと配布資料	小島
14		新生児期の助産診断：事例展開 事前事後「助産学講座8」該当ページと配布資料	小島
15		産褥/新生児期の健康課題と保健指導 { 演習 }	大瀬/野々山
16		産褥/新生児期の健康課題と保健指導 { 演習 }	大瀬/野々山
17		産褥/新生児期の健康課題と保健指導 { 演習 }	大瀬/野々山
18		産褥/新生児期の健康課題と保健指導 { 演習 }	大瀬/野々山
19		健康課題と教育 { 演習 } 集団指導の実際：出産準備教育	大瀬/野々山
20		健康課題と教育 { 演習 } 集団指導の実際：出産準備教育	大瀬/野々山
21		健康課題と教育 { 演習 } 集団指導の実際：出産準備教育	大瀬/野々山
試験		定期試験	小島
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評価方法		定期試験：75%（内訳：妊娠期50% 産褥/新生児期50%） 助産過程・保健指導案：25% 最終評価は総合的に判定する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する	
教科書		1. 堀内成子、片岡弥恵子編：「助産学講座5 助産診断・技術学」（第6版）、医学書院 2. 我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座2[2] 基礎助産学」（第6版）、医学書院 3. 我部山キヨ子、菅原ますみ編：「助産学講座4[4] 基礎助産学」（第6版）、医学書院 4. 我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座6[1] 妊娠期」（第6版）、医学書院 5. 我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座7[2] 分娩期・産褥期」（第6版）、医学書院 6. 我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座8[3] 新生児期・乳幼児期」（第6版）、医学書院 7. 佐々木くみ子編：「助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア」、日本看護協会出版会 8. 小林康江編：「助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」、日本看護協会出版会 9. 北川真理子：「今日の助産」（第3版）、南山堂 10. 医療医用法研究会編：「病気がみえる Vol.10 産科」（第4版）、メディックメディア 11. 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン 産科編2023」、日本産婦人科学会	
参考書		森恵美編：「助産師基礎教育テキスト4 妊娠期の診断とケア」、日本看護協会出版会 横尾京子編：「助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア」、日本看護協会出版会 太田操編著：「助産ケア臨床ノート分娩期の母児」、医歯薬出版株式会社 我部山キヨ子、大石時子：「助産師のためのフィジカルイグザミネーション」、医学書院 仁志田博司：「新生児学入門」（第5版）、医学書院 吉沢豊予子、鈴木幸子編：「マタニティアセスメントガイド（新訂第4版）、真興交易（株）医書出版部	
履修上の注意点及び取扱い		【履修について】 該当する教科書や参考書等の頁を提示するので、事前事後の学習を怠らないこと。 【出欠席について】 無断欠席は一切認めない。やむを得ず欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 【定期試験の受験資格について】 学修ガイダンスに準ずる。 【定期試験の不合格者に対する取扱いについて】 (助産師課程要項参照) 不合格(再試験でD評価)の場合、次年度に再履修することはできない。 したがって、助産師課程離脱となる。	

科目名	助産診断技術学		
科目コード	35105	科目ナンバリング	B351053
授業形態	演習	開講時期	3年後期
必修・選択	必修		
単位数	3単位	時間数	90時間
先修条件	1. 「助産学総論」・「助産診断技術学」の単位を修得していること。2. 「助産学演習」の単位数先修条件となる。		
教員名	大瀬 恵子・小島 徳子・野々山 英里・平野 友美		
実務経験	助産師とし助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間		
科目概要	<p>妊娠・分娩・産褥各期における女性の身体的・心理社会状態について、正常経過とその逸脱を独自に判断でき、対象により良い健康レベルの援助を提供するための必要な基礎実践能力について学修する。助産過程に必要な原理と技法を理解し、事例展開を行って、実際に活用できる能力を修得する。</p> <p>「別表2：助産診断・技術学」</p>		
到達目標	<p>正常な経過をたどる助産の対象者（妊産婦、新生児およびその家族）の経過診断、健康生活診断するために必要な知識・技術を修得する。  正常からの逸脱や異常の有無を判断するために必要な妊娠・分娩・産褥・新生児の異常に関する基礎的な知識を修得する。  分娩助産技術の科学的根拠と助産技術を理解する。  正常から逸脱した状態にある産婦の助産診断と援助を理解する。  習得した知識や技術を活用し、分娩各期における助産計画を立案できる。  産科手術および産科的医療処置、産科救急、会陰縫合術などを理解する。  マタニティサイクル各期で行われる検査や使用される薬剤を理解する。  健康教育・保健指導の企画や方法・運営・評価について修得する。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		助産診断技術学 オリエンテーション	大瀬
2		健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について{演習} 出産準備教育の企画・運営方法の理解(企画・運営)する。	大瀬
3		健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について{演習} 教育の企画・運営方法の理解(対象・ニーズについて)する。	大瀬
4		健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について{演習} 企画・運営の実際を理解する。	大瀬/全員
5		健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について{演習} 企画・運営の実際を理解する。	大瀬/全員
6		健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について{演習} 企画・運営の実際を理解する。	大瀬/全員
7		健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について{演習} 企画・運営の実際を理解する。	大瀬/全員
8		分娩期{講義}: 分娩期の生理、分娩経過のアセスメントに必要な知識と技術 事前事後「助産学講座7 助産診断技術学」該当ページと配布資料	大瀬
9		分娩期{講義}: 分娩期のニーズ・健康課題と看護 事前事後「助産学講座7 助産診断技術学」該当ページと配布資料	大瀬
10		分娩期{講義}: 分娩期に起こりうる正常からの逸脱 事前事後「助産学講座7 助産診断技術学」該当ページと配布資料	大瀬
11		分娩助産方法の原理と原則を踏まえた分娩助産技術{講義} 分娩助産の意義・原理	大瀬

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1 2		分娩介助方法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術 { 講義・演習 } 正常分娩介助法の原理 ( 正常分娩の娩出機転など ) 事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料	大瀬
1 3		分娩介助方法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術 { 講義・演習 } 分娩介助時の技術 ( 努責方法・会陰保護 ) 付属物の検査と計測 ( 計測 の実際 ) 「助産学講座7」の該当ページと配布資料	大瀬
1 4		分娩介助方法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術 { 講義・演習 } 分娩介助技術の実際 ( 分娩マニュアルの作成、初期診断・バルトグラ ムの作成 ) 事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料	大瀬
1 5		分娩期の助産診断 { 講義 } : 分娩時における助産診断とは 事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料 参考「今日の 助産」	大瀬
1 6		分娩期の助産診断 { 講義 } : 電話連絡時・入院時の初期診断と助産計 画立案 事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料 参考「今日の 助産」	大瀬
1 7		分娩期の助産診断 { 演習 } : 事例展開	大瀬
1 8		分娩期の助産診断 { 演習 } : 事例展開	大瀬
1 9		分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について { 演 習 } 正常分娩介助 ( 分娩セットの準備、手洗い、ガウン・グローブ装 着 )	大瀬/全員
2 0		分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について { 演 習 } 正常分娩介助 ( 清潔野の作成、分娩介助の準備、間接介助 )、直 接介助の実際	大瀬/全員
2 1		分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について { 演 習 } 正常分娩介助 ( 清潔野の作成、分娩介助の準備、間接介助 )、直 接介助の実際	大瀬/全員
2 2		分娩期の診断内容とフィジカルアセスメントに必要な助産技術 { 講義 ・演習 } 分娩期に伴う技術 ( 内診、人工破膜、導尿 )	大瀬/全員
2 3		教育・保健指導に必要な方法や運営の実際 : 出産準備教育の企画・運 営の実施	大瀬/全員
2 4		産科手術および産科的医療処置 { 講義 } : 産科手術 ( 帝王切開・無痛 分娩 )、産科麻酔、救急処置 事前事後「助産学講座6」「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
2 5		産科手術および産科的医療処置 { 講義 } : 産科手術 ( 帝王切開・無痛 分娩 )、産科麻酔、救急処置 事前事後「助産学講座6」「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
2 6		分娩期の診断内容とフィジカルアセスメントに必要な助産技術 { 講義 ・演習 } 破水を生じた産婦の看護 ( 破水の種類、診察方法など )、誘 発分娩、点滴管理 事前事後「助産学講座6」「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
2 7		分娩期の診断と援助 { 講義 } : CTG装着と判読、児心音低下時の対応 とケア 事前事後「助産学講座6」「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
2 8		分娩期の助産診断 { 演習 } : 事例展開 ( 助産計画の発表 )	大瀬
2 9		分娩期の助産診断 { 演習 } : 事例展開 ( 助産計画の発表 )	大瀬
3 0		分娩期の助産診断 { 演習 } : 事例展開 ( 助産計画の発表 )	大瀬
3 1		分娩期の診断内容とフィジカルアセスメントに必要な助産技術 { 講義 ・演習 } 分娩期に伴う技術 ( 内診、人工破膜、導尿 )	大瀬
3 2		分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について { 演 習 } 付属物の検査と測定・出血量測定・分娩第3期のケア・分娩第4期 のケア 事前事後「助産学講座7」該当ページと配布資料	大瀬
3 3		分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について { 演 習 } 新生児の診断と援助、分娩期の助産技術の確認と振り返り	大瀬
3 4		分娩期の診断内容とフィジカルアセスメントに必要な助産技術 { 講義 ・演習 } 分娩期に伴う技術 ( 会陰縫合 ) 事前事後「助産学講座7」該当ページと配布資料	大瀬
3 5		分娩期の診断内容とフィジカルアセスメントに必要な助産技術 { 講義 ・演習 } 分娩期に伴う技術 ( 会陰縫合 ) 事前事後「助産学講座7」該当ページと配布資料	大瀬

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
36		教育・保健指導に必要な方法や運営の実際：出産準備教育の企画・運営の実施	大瀬/全員
37		教育・保健指導に必要な方法や運営の実際：出産準備教育の企画・運営の実施	大瀬/全員
38		教育・保健指導に必要な方法や運営の実際：出産準備教育の企画・運営の実施	大瀬/全員
39		出生直後の新生児の管理 { 演習 } : 間接介助・新生児係の役割・早期母子接触)	野々山
40		出生直後の新生児の管理 { 演習 } : 間接介助・新生児係の役割・早期母子接触)	野々山
41		出生直後の新生児の管理 { 演習 } : 間接介助・新生児係の役割・早期母子接触)	野々山
42		出生直後の新生児の管理 { 演習 } : 間接介助・新生児係の役割・早期母子接触)	野々山
試験		定期試験	大瀬
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評価方法		定期試験：50% 分娩介助技術試験：40% 健康教育・保健指導発表、課題レポート等：10% 最終評価は総合的に判定する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する	
教科書		北川眞理子：「今日の助産」（第4版）、南山堂 堀内成子編：「助産学講座5 助産診断・技術学」（第6版）、医学書院 我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座6[1] 妊娠期」（第6版）、医学書院 我部山キヨ子、藤井知行編：「助産学講座7[2] 分娩期・産褥期」（第6版）、医学書院 石井邦子、廣間武彦編：「助産学講座8[3] 新生児期・乳幼児期」（第6版）、医学書院 佐々木くみ子編：「助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア」、日本看護協会出版会 遠藤俊子編：「助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」、日本看護協会出版会 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン 産科編2023」、日本産婦人科学会	
参考書		森恵美編：「助産師基礎教育テキスト4 妊娠期の診断とケア」、日本看護協会出版会 横尾京子編：「助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア」、日本看護協会出版会 分娩期ケアガイドライン翻訳チーム：「WHO推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア」（2021年版）、医学書院 太田操編著：「助産ケア臨床ノート分娩期の母児」、医歯薬出版株式会社 医療医用法研究会編：「病気がみえる Vol.10 産科」（第4版）、メディックメディア 我部山キヨ子、大石時子：「助産師のためのフィジカルイグザミネーション」、医学書院 仁志田博司：「新生児学入門」（第5版）、医学書院 細野茂春監修：「新生児蘇生法テキスト」（第4版）、メジカルビュー社 戸田律子、「マタニティクラスBOOK」、医学書院	
履修上の注意点及び取扱い		【履修について】 1 事前事後の学修と技術練習を怠らないこと。 2 課題やレポートは、提出日時を厳守すること。 【定期試験の受験資格について】 学修ガイダンスに準ずる。 【定期試験の不合格者に対する取扱いについて】（助産師課程要項参照） 1 分娩介助技術試験は再試験を実施する。 2 不合格（再試験でD評価）の場合、次年度に再履修することはできない。したがって、助産師課程離脱となる。	